

資料 2

各区における家庭教育事業の 取り組みについて

北区

豊栄地区公民館の取組

● 乳児期家庭教育学級(R7~ 北っこBaby)

(1) 夫婦(家族)参加型講座

- 回数 連続6回(令和7年12月~令和8年2月)
- 特徴 保育コンシェルジュ・子育て支援センター保育士による親子遊び(第2回:保育なし)
パートナーと参加できるよう日曜日に開催(第5回:保育あり)
- 内容 心を育む親子あそび、赤ちゃんの健やかな成長、みんなで育ちあうために、自分らしく生きるために
- 参加者 0歳のお子さんの保護者15人
(保育12人)

昨年度の様子…親子あそびと土曜開催の回



(2) 令和6年度の成果と課題

- 成果 北区健康福祉課・北区2館の三者で打合せ、連携により対象者全員に郵送で案内できた。
寒波襲来でも中止することなく、オンライン講座に切り替えて開催することができた。
- 課題 父親の参加しやすさの工夫が必要(継続)。

(3) 活動協力員の意見

- 様々な情報に悩む親が見受けられ、地域・学校・公民館の横の連携が大事。

(4) 改善点

- 寒波を避けるため、1月下旬開始を12月下旬開始と時期を前倒し。
- 保育なしの回を初回→最終回→第2回と変更。
- 北区での開催を年度3回から2回とし定員を増やした。

東区

中地区公民館の取組

・ 幼児期家庭教育学級

(1) 出前講座

気軽に参加しやすいオープン会場でイベントとして開催

- 回数 連続3回のうち出前講座1回（令和8年2月予定）
- 特徴
 - ・ 企業と連携し会場を借用（イオン新潟東店）
 - ・ 父親も参加しやすい土曜日に開催
 - ・ 子育てサロンなどの公民館事業をPRし、継続した子育て支援の促進
- 内容 1・2回目は、公民館で講義やグループワーク（保育付）
3回目は、イオン新潟東店で「親子で楽しむおうち遊び」（親子一緒）



昨年度の様子(土曜日版)



(2) 令和6年度の成果と課題

- 内容 幼児期家庭教育学級（講座）をオンラインで、土曜日版として親子遊びを出前講座で開催
- 成果 出前講座は定員を上回る応募があり、父親の申込も多かった。
- 課題 オンライン講座は平日開催で、父親の参加もあったが参加者は少なかった。

(3) 活動協力員の意見

- 公民館で何をやっているか、情報をキャッチできない人へどう届けるか、工夫が必要。
- 公民館へ出向くには敷居が高いと感じている人も多い。学校や保育園などへ公民館が出かけて事業を行い、公民館のPRをしてはどうか。

(4) 改善点

- 働く親の増加もあり、平日開催の参加者は減っている。また、オンラインよりも対面を望む声もあった。親子で楽しめる講座は、父親も気軽に参加しやすい。
- 令和7年度は全回土曜開催や身近な会場選定など、気軽に参加してもらえるよう工夫した。

中央区

中央公民館の取組

・子育て学習出前講座

(1) 学校へ講師派遣講座

小学校就学前～
中学生期保護者向け

- 特徴 多くの保護者が学校に集まる就学時健診・集会において講師を派遣し、家庭教育のあり方を考える機会を提供する。
- 実施先 新潟市立小学校・中学校
- 内容 公民館から学校へ講師を派遣し家庭教育講演会を開催する
- R6参加者 4,426人
小学校 85校 中学校 9校

(2) 令和6年度の成果と課題

- 成果 普段、公民館講座に参加しづらい保護者に家庭教育の重要性について理解を深めてもらい、子育ての不安解消につなげた。
- 課題 子育て学習出前講座の希望校が減ったことにより受講者数も減っている。

(3) 活動協力員の意見

- 昔は、球技大会など地域間で交流事業があり保護者同士が話す機会があったが今はない。
- 昔からの住人、転入者の交流が少なく、考え方が違うので保護者同士のかかわる場が必要。

(4) 改善点

- 令和7年度の改善点は、講義形式の講座のほかに、学校に規模に応じて、家庭教育ファシリテーターを活用したアウトリーチ型（参加者同士の対話型講座）を、学校に紹介して保護者同士の話し合いの場を設ける。



江南区

亀田地区公民館の取組

・乳児期家庭教育学級 夫婦で子育て

(1) 夫婦参加型講座(モデル事業)

- 目的 子育て中の保護者同士が交流し、親としての生き方や、夫婦・家族関係、社会との関わりを考え安心して子育てに取り組めるようにする
- 回数 連続3回(令和7年7～8月に実施)
- 特徴 父親も全3回参加できるよう日曜日に開催
- 内容 赤ちゃんの関わり方、仕事との両立を考える講義と話し合い
- R7参加者 生後3か月～1歳未満の保護者(保育あり)

1回目	父親9名、母親12名	計21名
2回目	父親10名、母親15名	計25名
3回目	父親8名、母親11名	計19名

今年度の様子



(2) 令和7年度の成果・意見

- 参加者アンケート結果の満足度は93%で概ね満足いただけた。やや不満と答えた方でも他のパパさんの境遇が知れてよかったとの回答があった。また新しい発見や内容がなかったとの意見もあった。

(3) 活動協力員の意見(計画段階)

- 子育てに対する孤独感や孤立化、悩みを相談する相手がないなど、同じような悩みを持つ親が多いことから、乳児期家庭教育学級では、区内で日程や内容を調整しプログラムを立案し、各地域にあった形で家庭教育学級や居場所づくりなどに取り組む必要がある。また、周知・PR方法もついても工夫が必要。

(4) 改善点と今後の課題

- 前年に引き続きモデル事業2年目。前年は参加者が少なく中止した回もあったことから、R7は、対象を夫婦、父親、母親だけでも参加可としたら参加者が増加した。次年度はモデル事業のアンケート結果なども乳児期家庭教育学級に反映させ、本年同様に母親だけでなく、父親を含めた保護者等の参加ができる内容とし、江南区内の地区館とも情報を共有し、健康福祉課との連携方法も考えながら内容を計画していく。

秋葉区

新津地区公民館の取組

・ 乳児期家庭教育学級(はぴ・ベビ・AKIHA)

(1) 夫婦(家族)参加型講座

- 回数 連続5回(前期:令和7年8~9月に実施)
ピアサポートができる仲間づくりを推進
- 特徴 第1回・第5回は父親も参加しやすいよう土日に開催
- 内容 赤ちゃんとの関わり方、こどもの成長や保育園についてなど講義や話し合い
- 対象者 生後3~9か月の乳児の保護者
定員16人 ※保育あり

昨年度の様子



(2) 令和6年度の成果と課題

- 成果 参加者アンケート結果の満足度は100%であった。父親の延参加人数は7人。父親同士はこどもをはさんで交流していた。「悩みを共有できて良かった」「コミュニケーションをとることの大切さを知った」などの感想があった。
- 課題 事業周知と参加する父親の増加

(3) 活動協力員の意見

- 保護者同士が交流し仲間になれる場が減少したことで関係づくりが難しくなっているため、地域や学校活動も含めて子育て世代がつながるきっかけとなる場が必要である。
- 参加者の声を活かして次につなげていくことが重要である。

(4) 改善点

- 参加者の声を聴いて細かく分析・検討を行い、父親が参加しやすい曜日やテーマを工夫する。
- 参加者を増やすため、広報媒体を工夫して講座の様子を発信し、内容が周知されるように努める。

南区

白根地区公民館の取組

● 乳児期家庭教育学級(だっこっこ学級)

(1) 夫婦(家族)参加型講座

- 回数 連続6回(前期:令和7年6~7月実施)
毎週開催することで仲間づくりを推進。
- 特徴 グループワーク中心の参加型プログラム。
第5回は父親も参加しやすいよう土曜に実施。
- 内容 赤ちゃんとの関わり方、親としての生き方、
夫婦、社会との関係を考える講義と話し合い。
- 参加者 生後2~8か月の乳児の保護者15人
(母親11人、父親4人) ※保育あり

今年度の様子



(2) 令和7年度の成果と課題

- 成果 参加者アンケート結果の満足度は100%であった。「いろんな方の話が聞けて良かった」「今日の話を夫とも共有したい」「他の家庭の話を聞くことは滅多にないのでよかった」など、子育て、夫婦、自分自身を見つめなおす良い機会となっている。
- 課題 父親の参加ニーズはあるが、講座の周知の仕方と参加を促すための工夫が必要である。

(3) 活動協力員の意見

- 祖父母や周囲の大人も、保護者を支えていくと良い。祖父母の子育て講座もいいのではないか。親以外の人でも子育てについて学べる場もあるといい。
- 保護者同士や先輩ママとフリートークできる場があると不安の解消につながりやすい。

(4) 改善点

健康福祉課と相談し、親子の絆づくりの要素を入れたプログラムに変更した。父親の参加は5回目のみだったが、夫婦での子育てを推進するには、もっと夫婦で参加できる回を増やしたプログラムを検討したい。

【西区】区役所との連携による乳児期家庭教育学級について ～はぐくみベビー教室～

R7.10.9 新潟市公民館運営審議会

取組の背景

【これまでの取り組み】

昭和50年に母子分離・保育室の設置型の講座「ゆりかご学級」として開設し、乳児期の子育てに必要な知識の習得や仲間づくりを目的とし、市内公民館で実施

【課題】

区役所健康福祉課開催によるBP（ベビープログラム）との重複、統一プログラム廃止による不公平感や、地域格差による定員割れのほか、保育者謝礼の財政逼迫など

西区子育て応援情報配信LINE
「にっこはぐくみLINK」より

にっこはぐくみ
LINK



R6.7～
西区健康福祉課
と協議開始

R7.1月末
プログラム
案完成

R7.4～
はぐくみベビー教室
西区4館で開催

成果と課題

【成果】

- ・同一年度内で区内公民館で受講できる仕組みの構築
- ・健康福祉課職員（保健師、保育コンシェルジュ）活用と親子同室講座の導入による報償費予算の削減
- ・連携、協働での広報実施による参加希望者の増加及び事務の簡素化

【課題】

- ・多様な学習ニーズへの対応や地域性への配慮など、担当者間で温度差が発生

講座のねらい・あり方の整理が必要!!



西蒲区

巻地区(西蒲区)公民館の取組

・乳児期家庭教育学級

(1) 母子分離・夫婦参加型講座

父親の参加を推奨

- 回数 連続4回 **2会期** (①令和7年5～6月 ②同年11月)
- 特徴 **西蒲区の5公民館で連携して**、生まれ月にかかわらず、年間を通して受講ができるよう講座を実施。夫婦での参加を想定、推奨した4回目は土曜日に開催し、座学と親子遊びの両方を実施。
- 内容 乳児期のこどもを持つ親が安心して育児にあたるためのきっかけ作りとして**生後3～9か月の保護者を対象に** ①産後の栄養 ②赤ちゃんのいる暮らし ③いま、親として ④ママとパパ、笑顔で子育て! の4講座を実施。
- 第1会期参加者 6人(募集定員10人)

(2) 令和7年度の成果と課題

- 成果 参加者アンケート結果の満足度、今後に活かすことができるが共に100%であった。どの回においても学ぶことが多く、満足度も高いものとなった。
- 課題 講座の対象となる市民の数が少ないことや地域性(親が近くいるなど)のため、申込者も少なくなってしまう。数少ない対象者に向けて、もっと訴求力のある広報をしていく必要がある。

(3) 改善点

- 4回目は夫婦での参加を呼び掛けたが、夫婦で参加したのは1組のみだった。仕事の都合などがあり、夫婦での参加は難しいとの声があった。今後は夫婦で参加しやすい条件の模索や、参加したいと思うようなプログラムの企画が必要である。



講座の様子



保育室の様子